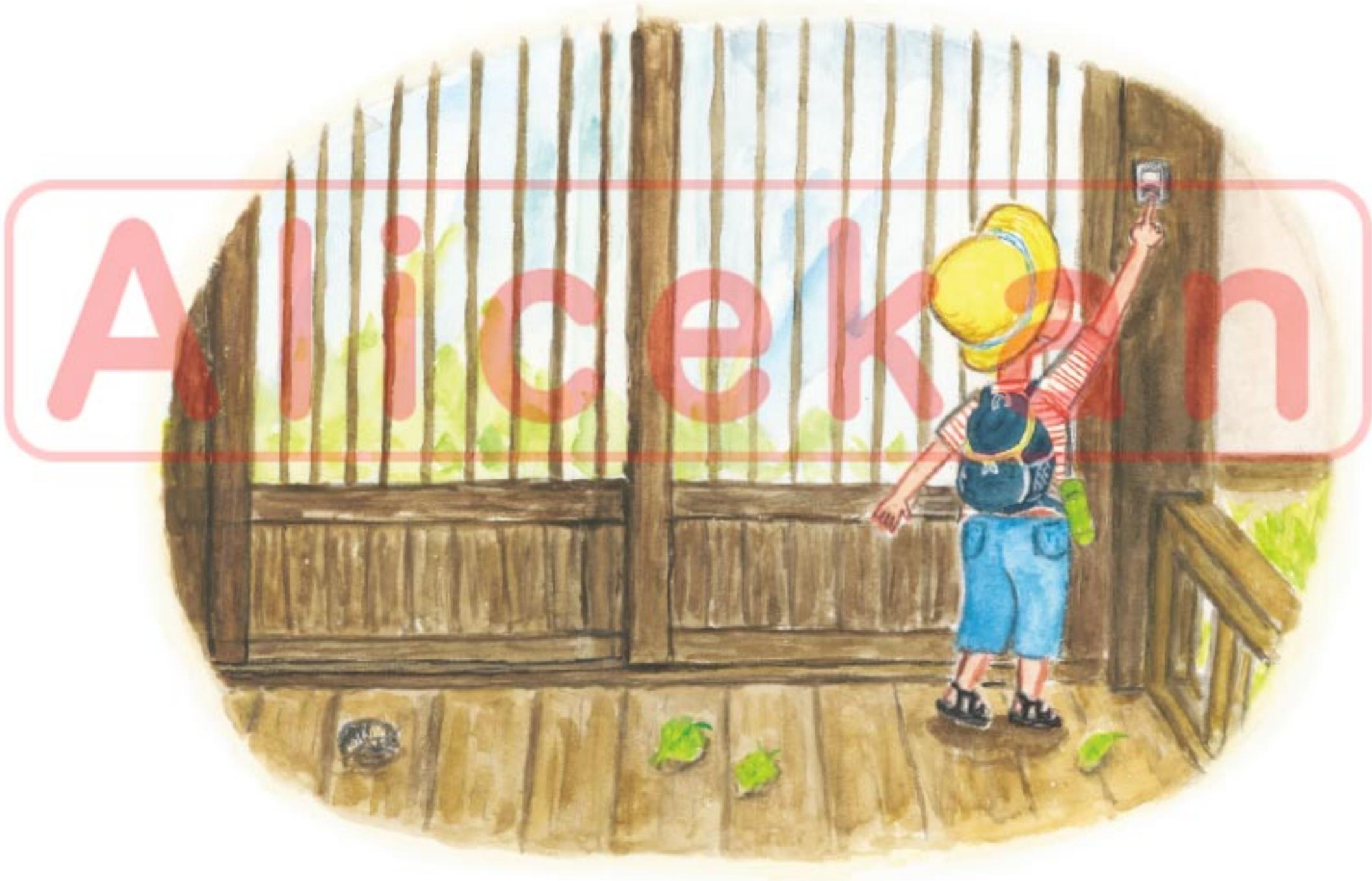


なごなごで おばけやしきたんけん

石津ちひろ 文 大島妙子 絵



ある なつの ひの こと。

ふうたは ひとりで、いなかの おばあちゃんちに やってきた。

「おばあちゃん！ おばあちゃん！……」
なんと おおごえで よんでも、へんじが ない。



そうっと なかに はいっていくと、
ふとった とらねこが まちかまえていた。
ふうたの かおを みると、ニヤッと わらって いった。

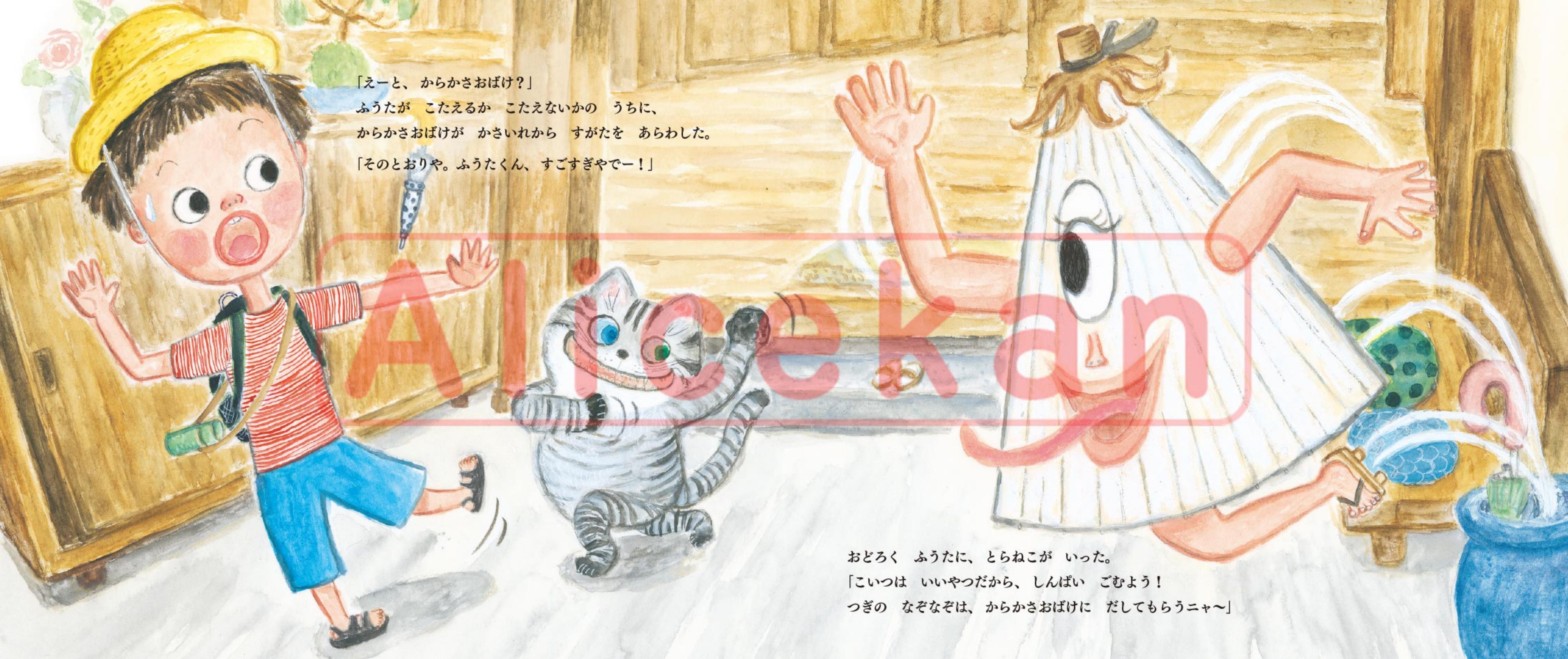
「ふうたくん、よくきたニャ～。まってたぞ。
おいらが いえのなかを あんないしてやるから、ついてきな。
ただし、なぞなぞに こたえられなかったら、
さきには すすめないからニャ～。いいかニャ～?
だい1もん、いくよ！」



Ai cekai



あめが ふっても
これが あるから あんしんさ と おもっていたら
いっぽんあしで あちこちを
ぴょんぴょん ぴょんぴょん とびはねはじめた
これは いったい ニャ～んだ?



「えーと、からかさおばけ？」

ふうたが こたえるか こたえないかの うちに、
からかさおばけが かさいれから すがたを あらわした。

「そのとおりや。ふうたくん、すごすぎやでー！」

おどろく ふうたに、とらねこが いった。

「こいつは いいやつだから、しんぱい ごむよう！

つぎの なぞなぞは、からかさおばけに だしてもらうニャ～」



「よっしゃ！」

からかさおばけは、はりきった こえで いう。

「ほな ふうたくん、ええか？」

なぞなぞ だすさかい、よう きいといでや！」



きものを きるときは

やっぱり これを はかな あかん と おもうとったら

はきものの はずやのに

りょうて りょうあし うごかして

うたいながら あるいは

これは いったい なんやろな？